

ほくと 子ども読書の杜プラン

－ 第三次北杜市子ども読書活動推進計画 －

（平成30年度～平成34年度）



北杜市教育委員会

平成30年3月

は じ め に

子どもたちの未来は希望に満ち、また、さまざまな可能性を秘めています。その可能性を引き出すための一つ的手段として、幼いころの「本の世界との出会い」や、その後の「読書習慣」は、子どもたちの夢の実現や、たくましく生きる力を育むなど、大きな役割を担っています。

社会情勢の変化により、子どもたちの活字離れ、読書離れが加速度を増す一方、子どもたちにとって、本や読書がもたらす意義や効果はいつの時代も変わることはなく普遍的な力を持ち続けています。

幼い時代に保護者から読んでもらった絵本の世界は、保護者の肌の温もりを感じながら、ことばを学び、想像力を高め、感性を豊かにします。また、物語がもたらす世界の不思議さや楽しみを覚えていきます。読書から知り得た世界は、創造力を育み、生きる力をもたらしします。

本市では、豊かな自然や人材、文化施設等、地域の資源を十分に活用した原体験や実体験を重視した教育である「原っぱ教育」を提唱し、心身ともに健康で郷土愛あふれる人づくりに取り組み、「夢を持ち、未来を切り拓く心身ともにたくましい北杜の子ども」づくりを目指しています。

未来を担う子どもたちが、夢の実現に向けて、他者への思いやりを大切にしながら、たくましく、しなやかに生活するためには、日々の学習や直接的な体験とともに、読書の力に負うところが大きいと思います。

市教育委員会では、読書活動の推進にあたり、子どもたちが、たくましく、しなやかな心で、輝かしい未来を切り拓いていくことを願いながら、北杜市のすべての子どもたちが、家庭、地域、学校、市立図書館等で、自ら本との出会いを求め、継続した読書習慣が身に付くよう「北杜市子ども読書活動推進計画（第三次）」を策定しました。

目 次

第1章	第三次計画策定の背景	
1	子どもたちの置かれている環境	1
2	第三次計画策定までの経緯	1
第2章	第二次計画における取組・成果及び課題	
1	家庭における取組・成果及び課題	2
2	保育園・認定こども園等における取組・成果及び課題	3
3	児童館・放課後児童クラブ等における取組・成果及び課題	4
4	学校における取組・成果及び課題	4
5	市立図書館における取組・成果及び課題	8
第3章	第三次計画の基本的な考え方	
1	基本的な考え方	1 2
2	子どもの健全育成に関わるすべての機関、 すべての大人たちへの呼びかけ	1 3
3	計画のめざすもの	1 3
4	計画の期間	1 4
第4章	具体的な方策	
1	家庭・地域等における子どもの読書活動の推進	1 5
2	学校等における子どもの読書活動の推進	1 6
3	市立図書館等における子どもの読書活動の推進	1 7
4	子ども読書活動推進の啓発・普及・広報の推進	1 9
5	子ども読書活動推進体制の確立	1 9
第5章	計画の推進に向けて	
1	数値目標	2 0
	「ほくと 子ども読書の杜プラン」 施策体系	2 1

参考資料

- 1 経過報告
- 2 子どもの読書活動の推進に関する法律
- 3 北杜市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱
- 4 北杜市子ども読書活動推進計画策定委員会委員名簿
- 5 活動施設一覧
- 6 平成 29 年度子ども読書活動アンケート調査の結果

第1章 第三次計画策定の背景

1 子どもたちの置かれている環境

子どもの読書活動は、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く味わいながら生きるため」に欠くことのできないものであり、子どもが、未来をたくましく切り拓くための道標でもあります。

しかしながら、情報通信技術の急激な進歩と共に、情報伝達手段は紙からPC、スマートホン、タブレットなどの電子媒体へと大きく変化し、多くの情報が容易に手に入れられるようになりました。文字・活字離れが顕著となり、また、TVゲームやスマホゲーム等が飛躍的に普及する中で、コミュニケーション能力や表現力、創造力の欠如、読書離れが指摘されています。

このような状況の中で、引き続き本の持つ力、本が子どもにもたらす有益性を強く伝えていく必要性があります。まずは、子どもたちを取り巻く大人たちが、身近に本を置き、気軽に本を取り、読書する姿を見せることが、子どもが本に親しむ最良な環境に他なりません。ことばで伝えると同時に姿で見せることこそ大事なことだと思います。

2 第三次計画策定までの経緯

北杜市では、合併して北杜市立図書館が誕生して以来、平成16年6月に旧須玉町で策定した「須玉・子ども読書プラン」を基本方針（第一次）として、子どもが、いつでも、どこでも読書に親しむことができる環境を整えるために、家庭や地域、学校、図書館において、子どもの読書活動を推進してきました。

しかし、子どもを取り巻く環境も変化してきており、北杜市の子ども読書活動を推進していく中で、新たな方針を示すことが必要となったことから、これまでの取り組みを踏まえ、平成24年度に「北杜市子ども読書活動推進計画（第二次）」―平成25年度から平成29年度―を策定し、子ども読書活動をさらに推進していくべく、学校や行政機関との連携を強化し、図書館ボランティアの支援拡大に取り組む等、こども読書活動の推進に努めて参りました。

本年度（平成29年度）で第二次実施計画策定から5年が経過すること、また県の第三次子ども読書活動推進実施計画が策定されたことを受け、市の第二次実施計画における取り組みを振り返り課題を整理し、今後の子どもの読書活動を推進していくための基本方針を示すべく、第三次実施計画（平成30年度から平成34年度）を策定することとしました。

第2章 第二次計画における取組・成果及び課題

平成25年度に策定した「第二次北杜市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもが幼い時からいつでも身近な場所で本に触れ、読書に親しむことができる環境を整えるため、家庭や地域、学校、市立図書館等が、それぞれに、あるいはお互いに連携する中で、子どもの読書活動推進への取り組みを行ってきました。

1 家庭における取組・成果及び課題

(1) 取組

- ブックスタート事業¹⁾による親子読書の推進
- 読み聞かせ

(2) 成果と課題

○ブックスタート事業

ブックスタート事業は、健康増進課(現ほくとっ子元気課)やブックスタートボランティアの協力のもと、親子が絵本を介してコミュニケーションを深めるとともに、保護者も本に触れる機会が持てるよう実施されてきました。

子どもの成長に合わせ、ブックスタート(7か月健診時)、セカンドブック(2歳健診時)、サードブック(就学時)を実施し、読み聞かせや絵本のプレゼント、図書館やおはなし会の紹介、おすすめ本リストの配布を行ってきました。

「平成29年度子ども読書活動アンケート調査」(以下、「アンケート調査」)の結果によると、ブックスタートについての認知率は、第二次の76.3%から83.1%と6.8%上昇しており、事業の普及が進んだことがうかがえます。また、ブックスタート事業でプレゼントされた絵本は、ほぼすべての家庭で読まれていました。そして「ブックスタートをきっかけに、子どもに本を読んであげる機会が増えた」と回答した家庭は66.8%となっており、絵本を介して赤ちゃんや保護者の触れ合いが増えたと考えられます。

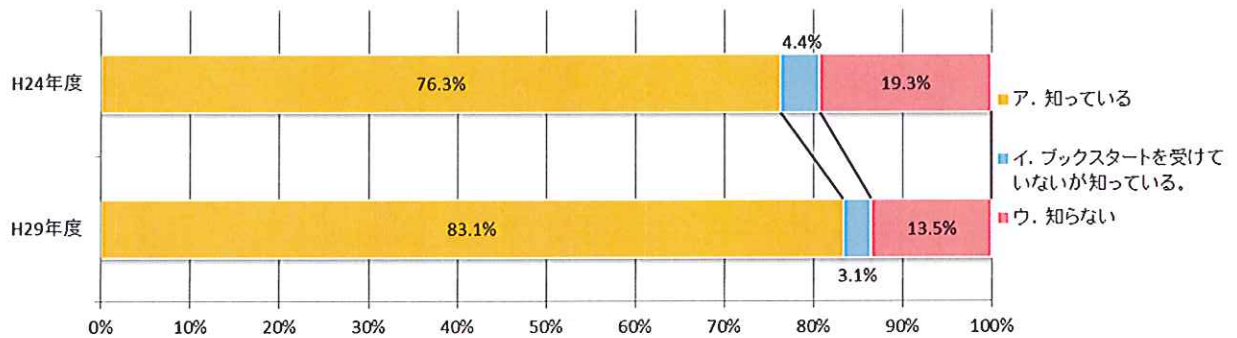
本事業は、継続的に実施することに意義があるため、今後も、子どもの発達段階に見合った読書活動を支援し、併せて図書館利用や家庭での親子読書のさらなる推進が図られるよう、各機関と連携を図りながら事業を展開していくことが求められます。また、ブックスタート事業の持つ意義を広く市民に周知し、この事業に参加することが、子どもが本と出会い、読書を楽しむきっかけを得ることに確実につながるということを、子どもを取り巻く大人たちにも強くアピールしていく必要があります。

1) ブックスタート事業

絵本を介して赤ちゃんや保護者が心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる事業。ブックスタート(7か月健診時)のフォローアップとして、セカンドブック(2歳児健診時)、サードブック(就学時)を実施している。

■ブックスタート事業の認知状況

	ア. 知っている	イ. ブックスタートを受けていないが知っている	ウ. 知らない
H24 年度	76.3%	4.4%	19.3%
H29 年度	83.1%	3.1%	13.5%



出典:「第二次北杜市子ども読書活動推進計画」(H24 年度調査)

「平成 29 年度子ども読書活動アンケート調査」

○読み聞かせ

家庭での読み聞かせについて、「週 3 回以上子どもに本を読んでいる」と答えた家庭は 51%で、前回調査の 57%より減少してはいますが、99%の保護者が、「子どもが本を読むことは大切だ」と答えており、本に触れる重要性が認識されていることがわかります。「子どもが本を読むようになるにはどうすればよいか」との質問には、59%が「大人が読んであげる」と回答しており、読み聞かせの効果への期待が表れた数値となっています。

今後も引き続き、保護者や子どもを取り巻く大人が、読書の大切さを理解し、家庭における読み聞かせ等親子読書の機会が増すような取り組みが求められます。

2 保育園・認定こども園等における取組・成果及び課題

(1) 取組

- 各種行事・おはなし会・保育時やお昼寝の前などでの読み聞かせの実施
- ボランティアや市立図書館との連携によるおはなし会の実施
- 家庭における読み聞かせの重要性の周知
- 市立図書館の利用促進と団体貸出の利用
- 児童図書の充実

(2) 成果と課題

市内には、市立保育園が12か所、保育所型認定こども園が3か所、私立保育園が3か所あります。保育園では、年齢別月刊絵本を保育教材として購入・活用しています。

読み聞かせは、多くの保育園・認定こども園等において、様々な活動の中で実施されており、ボランティアや保護者による読み聞かせも年々増加しています。市立図書館の団体貸出の利用や図書館職員によるおはなし会の回数も大幅に増え、子どもがより多くの本に触れる機会が高まっています。

今後も、市立図書館との連携を一層密にし、子どもの読書習慣の形成を図るとともに、保護者に対しても、幼児期から継続して本に触れる時間を持つことの重要性を訴えていくことが大切です。

3 児童館・放課後児童クラブ等における取組・成果及び課題

(1) 取組

- おはなし会での読み聞かせの実施
- 市立図書館の見学
- 市立図書館の利用促進と団体貸出の活用

(2) 成果と課題

市内には、児童館が4か所、放課後児童クラブが13か所、つどいの広場が4か所、子育て支援センターが3か所あります。開催頻度や対象学年に違いはありますが、すべての児童館で読み聞かせやおはなし会が開催されています。一方、放課後児童クラブや児童福祉施設においては全体の6割程度の実施にとどまっており、読み聞かせができる体制の確保を含め、さまざまな場所で、幼児の頃から読書に親しむことができる環境を作っておくことが必要です。

また、市立図書館の団体貸出については、着実に利用が増加していますが、子どもがより多くの本に触れる機会を得るために、さらに団体貸出制度の活用を促進していくことが望まれます。

4 学校における取組・成果及び課題

(1) 取組

- 朝の読書²⁾(朝読)時間の推進
- おはなし会、ブックトーク³⁾等の充実
- 家読⁴⁾(うちどく)の推進
- 学校図書館の充実
- 市立図書館との連携

○図書館の見学

(2) 成果と課題

○朝の読書等の時間の推進

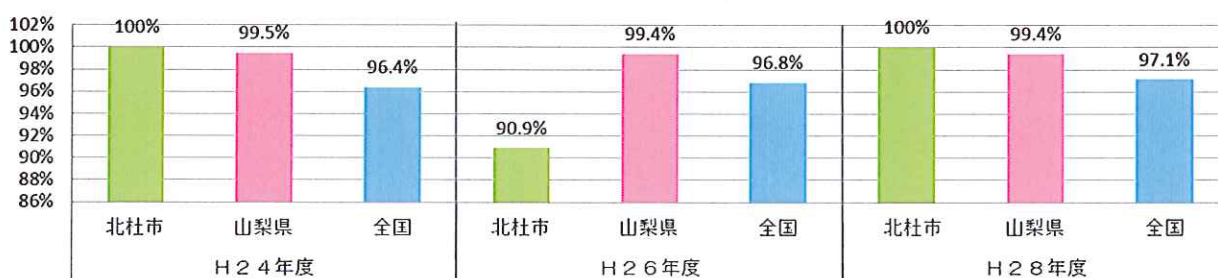
本市の小・中学校において、平成28年度の各自治体における学校図書館図書標準⁵⁾達成学校数が当該自治体の全学校数に占める割合は、小学校100%、中学校88.9%となっています。学校では従来から読書の大切さを認識し、教師・児童・生徒がともに学校での読書活動に取り組んでいます。『朝の読書の時間（朝読）』などの全校一斉読書は、「毎日実施している」、「週に数回実施している」など、実施頻度は学校によって異なりますが、市内のすべての小・中学校で実施しています。

朝読の取組みは、子どもが日常的に本に触れ、読書が習慣づけされるきっかけとなる事業として、引き続き取り組みを進めていくことが求められます。

◎小学校

H24年度			H26年度			H28年度		
北杜市	山梨県	全国	北杜市	山梨県	全国	北杜市	山梨県	全国
100%	99.5%	96.4%	90.9%	99.4%	96.8%	100%	99.4%	97.1%
14/14	182/183	19,957/20,693	10/11	179/180	19,508/20,147	11/11	172/173	19,038/19,604

一斉読書の比較（全国・山梨県・北杜市）



2) 朝の読書

ホームルームや授業の始まる前の10分間、自分の好きな本を読む取り組み。

3) ブックトーク

ある特定のテーマに沿って、数冊の本を順序よく紹介する方法。

4) 家読

家庭で家族と一緒に本を読み感想を話し合うことでコミュニケーションを図ることを目的とした取り組み。

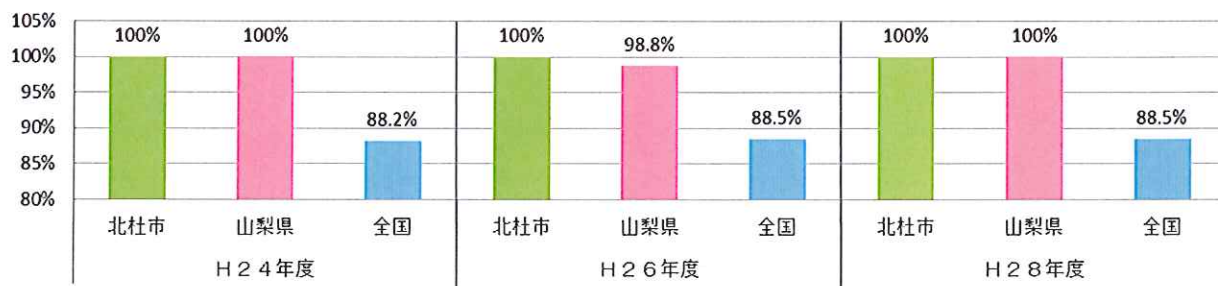
5) 学校図書館図書標準

公立の義務教育諸学校において、学校図書館の整備を図る際の目標として、学校規模に応じて図書の標準冊数を定めたもの。また、学校図書館の図書の計画的な整備を一層進め、義務教育諸学校において学校図書館図書標準の早期達成に努めるよう、文部科学省から各市町村に対して交付税措置がされている。

◎中学校

H 2 4 年度			H 2 6 年度			H 2 8 年度		
北杜市	山梨県	全国	北杜市	山梨県	全国	北杜市	山梨県	全国
100%	100%	88.2%	100%	98.8%	88.5%	100%	100%	88.5%
9/9	87/87	8,572/9,720	9/9	84/85	8,460/9,558	9/9	79/79	8,341/9,427

一斉読書の比較（全国・山梨県・北杜市）



出典：「学校図書館の現状に関する調査」（H24年版～H28年版査 文部科学省）

○おはなし会・ブックトーク等の充実

おはなし会やブックトークなどの読み聞かせについても、すべての小・中学校で実施するようになり、教職員・保護者・地域のボランティアなど多くの方々が関わっています。

今後も学校でのおはなし会等を充実させるため、関係者が協働し、子どもの読書活動を支援していくことが求められます。

○家読の推進

学校だけでなく、家族ぐるみで読書に親しんでもらうため、市内小・中学校では家読を推進してきました。学校通信や図書館だよりの発行により、また学校行事の折などに、保護者に対して家読についての紹介・説明を行い、家庭向けにおすすめの本のリストを配布するなど、子どもたちが読書を通して家族との触れ合いを享受できるよう、家庭での読書の大切さを伝えてきました。そして、長期休暇中に家族で読書し作成した感想文等が、学校や市立図書館で展示されるまでになりました。

その努力が実を結び、武川中学校が「つながり」というテーマを掲げた読書活動や朝読の実践などで平成26年度に、また、長坂小学校が家読の推進や朝の読み聞かせの導入などで平成29年度に、「子ども読書活動優秀実績校・文部科学大臣表彰」を受賞しました。

このように、学校における読書推進活動は積極的に行われていますが、学年が上がるにつれて読書量の減少傾向が見られます。「アンケート調査」によると、1週間に読む本が「0～1冊」と回答した児童・生徒は、小学校低学年

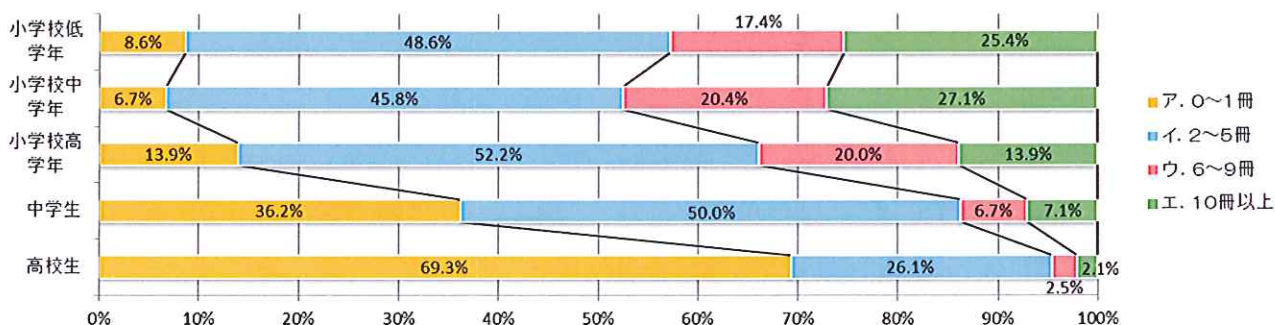
で 8.6%、中学年で 6.7%、高学年で 13.9%であるのに対し、中学生は 36.2%という結果が出ています。また、本を読むことが「好き」と回答した児童・生徒は、小学校低学年で 86.3%、中学年で 90.4%、高学年で 83.8%であるのに対し、中学生では 74.4%となっており、前回の調査とほぼ同じ数値です。

小・中学生が読書に親しむ機会をより多く確保するため、朝読等の読書活動を今後も継続するとともに、読書を日常的に生活に組み込んでいくための家読の推進も引き続き行っていく必要があります。

■児童・生徒の家読推進状況

(単位：人)

	ア. 0～1冊	イ. 2～5冊	ウ. 6～9冊	エ. 10冊以上
小学校低学年	52	293	105	153
小学校中学年	38	260	116	154
小学校高学年	90	337	129	90
中学生	384	531	71	75
高校生	907	341	33	27



出典：「平成29年度子ども読書活動アンケート調査」

○市立図書館との連携

平成26年度から、市立図書館とのネットワークを整備したことで、学校は学習や教育を目的とした資料を自校のシステムから検索し予約をかけることができるようになり、より効率的な運用が実現しました。また、市立図書館から借り受けた図書は、児童・生徒に貸し出すことができるため、子どもたちの要望に対する迅速な対応が可能となりました。子どもができるだけ多くの本に触れる機会が得られるよう、今後も引き続きネットワークの活用を促進していきます。

市内にある高等学校3校については、今年度よりアンケート調査を実施したところ、学業や部活動などに比重がかかる生活の中で、読書時間の確保が難しい状況が浮き彫りになりました。1週間に読む本が「0～1冊」と答えた生徒は全体の69.3%を占め、その理由を「時間がないから」と回答した生徒の内の74.7%が、「勉強、塾、習い事、部活動」を理由に挙げています。

そのような中でも、山梨県立北杜高等学校においては、学校図書館と市立図書館が連携して開催するビブリオバトルへの積極的な取り組みなどが評価され、平成28年度「子ども読書活動優秀実績校・文部科学大臣表彰」を受賞しました。また、同校3年の男子生徒が、「全国高校ビブリオバトル2016」において優勝したことは、記憶に新しい出来事です。

読書を通して学ぶことは、多感な時期を過ごす児童・生徒にとって、自分自身を見つめ直し発想力を豊かにするための大きな助けになります。学校・図書館・教育機関等が連携する中で、ビブリオバトルやブックトークなど、読書の大切さ、面白さをアピールする事業をさらに充実させていく必要があります。

5 市立図書館における取組・成果及び課題

(1) 取組

- ブックスタート事業、ママパパ学級⁶⁾における親子読書の推進
- 子ども向けの事業（おはなし会、図書館祭り等各種イベント）の実施
- 本の杜への招待状⁷⁾ 事業における図書館利用の促進
- 子どもの読書週間⁸⁾ に合わせたおすすめ本の展示やリストの配布
- 図書館情報誌「やまね便り」の発行
- 児童館・保育園・学校等へのブックトーク、おはなし会の出張サービス
- 施設見学、職場体験等の受け入れ
- 学校図書館司書と市立図書館司書との連携
- 図書館ボランティア研修会の実施
- 障害のある子どもや外国籍の子どもの読書活動支援

(2) 成果と課題

○親子読書の推進

北杜市金田一春彦記念図書館が、平成25年度「子どもの読書活動優秀実践図書館・文部科学大臣賞」を受賞しました。受賞理由である、乳幼児への読書支援を行うブックスタート事業やおはなし会等への取り組みは、北杜市立図書館の主要事業の一つです。

また、ママパパ学級においても、絵本の読み聞かせという手段で親子のコミュニケーションを高める意義について説明を行っています。読み聞かせの

6) ママパパ学級

妊娠中を健康で安心して過ごすための支援。健康で元気な赤ちゃんを産み育てるため、赤ちゃんの誕生を迎えるママパパが出産や育児に関して学ぶ。

7) 本の杜への招待状

2歳児健診時に図書館で開催するおはなし会への招待状を配布する事業。また、招待状を持参することにより図書館で絵本をプレゼントする。

8) 子どもの読書週間

4月23日～5月12日。

大切さや読書の楽しさを、今後も引き続き子どもや子どもを取り巻く大人に広く周知していくことが重要です。

○子ども向け事業、児童館・保育園・学校等へ出張サービスの実施

おはなし会や読み聞かせなどへの参加者数は年々増加しており、図書館内あるいは児童館・保育園・学校等へ出向いて行うおはなし会やさまざまなイベントを実施することで、子どもが読書の大切さや楽しさを知るきっかけを提供できていると考えます。

○本の杜への招待状事業

平成28年度からは、市独自の取り組みとして、図書館を訪れる機会が少ない赤ちゃんや保護者に、図書館に来て本に触れる機会を提供するため、市立図書館で実施しているおはなし会への招待状を配布し、その招待状を持って参加した子どもに絵本をプレゼントする「本の杜への招待状」事業を実施しています。ブックスタートにおける絵本の配布率がほぼ100%であるのに対し、「本の杜への招待状」事業においては、絵本の引換率が3割程度にとどまっています。

市内の保育園に通う園児の保護者に対して行った「アンケート調査」によると、「ブックスタート後、図書館や図書館で開催されるおはなし会などに参加したか」との質問に対し「参加した」と回答した家庭は、34.5%にとどまっています。また、「市立図書館にどんなことを望むか」という質問に対し、「赤ちゃんや子どもが泣いたり騒いだりすると他の利用者に気兼ねをするので、空き室を解放してほしい」「子ども用、大人用、勉強用とスペースを分けたり、声を出して本が読めるスペースがあればよい」といった声や、「幼児向けのおはなし会を土・日に開催してほしい」という意見も寄せられました。これにより、乳幼児を抱えた保護者が図書館を訪れにくいなどの様子がうかがえます。

市立図書館に足を運んでもらい、親子で本に触れ読書に親しむきっかけを得てもらえるようPRをする一方で、限られたスペースの中で利用者に気持ち良く過ごしてもらうための方策や、仕事を持つ保護者が、休みの土・日に子どもと一緒に来館し参加できるような事業の実施を検討していくことが課題となっています。

○おすすめ本の展示やリストの配布

毎年「子どもの読書週間」に合わせ、市立図書館でおすすめ本の展示やリストの配布、おはなし会を実施しています。今後も引き続き、子どもの読書活動についての関心が深まり、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を促進する事業の実施が求められます。

○「やまね便り」の発行

年4回、図書館情報誌「やまね便り」を発行し、本や雑誌の紹介、職場体験の感想なども掲載しています。今後は、子ども向けの情報や図書に関する情報をさらに充実させるような取り組みが求められます。

○図書館見学、職場体験等の受け入れ

保育園児・小・中・高校生による図書館見学や職場体験、インターンシップの受け入れ等を積極的に行っています。読書活動だけでなく、図書館を身近に感じ興味をもってもらえるような事業を今後も実施し、より一層のPRに努める必要があります。

○学校図書館司書と市立図書館司書との連携

子どもの読書活動の推進には、あらゆる関係機関との連携が必要ですが、その一つとして図書館司書相互の連携があります。学校図書館司書とおすすめ本リストを作成する「読書マラソン」やおはなし会、ブックトーク、朝の読書等の実施において、学校図書館司書と市立図書館司書が協力して子どもの読書活動を推進してきました。おはなし会やブックトークは、毎年ほぼ同じ頻度で開催されており、連携体制が確立されてきた結果がうかがえます。連携会議については、平成28年度以降は8町すべてで開催されるようになり、開催回数も増加しています。引き続き綿密に連携を図り、子どもの読書環境を整えていくことが求められます。

◎学校図書館との連携

年度	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度	
事業名	学校図書館 連携会議	おはなし会 ブックトーク等	学校図書館 連携会議	おはなし会 ブックトーク等	学校図書館 連携会議	おはなし会 ブックトーク等	学校図書館 連携会議	おはなし会 ブックトーク等
回数	13 各町 1～3	13	12 各町 1～3	21	14 各町 0～3	20	14 各町 1～3	22

出典：「はくと子ども読書の杜プランナー北杜市子ども読書活動推進計画ー進捗状況報告書（平成28年度）」

○図書館ボランティア研修会の実施

図書館サービスをさらに充実させるためには、図書館ボランティアの協力は必要不可欠です。図書館とボランティアが連携し協働していくためには、ボランティアの資質向上を目指した研修会を継続的・段階的に実施していくことが大切です。

○障害のある子どもや外国籍の子どもの読書活動支援

北杜市立図書館において、障害のある子どもや外国籍の子どもへの読書活動の支援は、一部資料の収集にとどまっています。今後は、障害の種類や特性に応じた図書資料や外国語による児童書の整備・充実など、障害のある子どもや外国語を母国語とする子どもへの図書館サービスについても課題として取り組んでいく必要があります。

第3章 第三次計画の基本的な考え方

1 基本的な考え方

国は、平成13年に、子どもの読書活動に関する施策の総合的、計画的な推進を図るため、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、この法律に基づき、平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定されました。これを受けて平成20年3月に第二次、平成25年5月に第三次の基本計画が策定されています。第三次基本計画の中では、目指すべき推進体制として、平成24年から平成34年までの10年間で不読率を半減させること、市町村の推進計画策定率を向上させること（市においては100%）、子どもと本をつなぐすべての人の連携・協力の促進を図ることが掲げられています。

山梨県は、国の法整備に沿う形で、平成17年2月に第一次となる「山梨県子ども読書活動推進実施計画」を、平成24年2月に第二次実施計画を策定しました。平成29年3月に策定した「第三次山梨県子ども読書活動推進実施計画」においては、実施目標として、子どもの読書活動を推進する地域づくり、子どもの読書活動を推進する人材の育成、子どもの読書活動を推進するための環境整備・充実、子どもの読書活動推進のための普及・啓発が掲げられています。実施計画の指針となっている「新やまなしの教育振興プラン」の基本方針のひとつとして、「豊かな心と自己実現を図る力を育成」することが示されており、その施策のひとつに「読書活動の充実」があげられています。また、基本方針「家庭・地域・学校が連携した教育の実現に取り組む」ことにおいては、施策として「子どもの読書活動支援」が取り上げられており、子どもの読書活動の推進が教育振興における重要な基本政策のひとつであることを示しています。

北杜市においては、国・県が策定した第三次計画の内容を基本に、第2章の第二次計画の取組・成果及び課題を踏まえ、本市の未来を担う子どもたちが、夢の実現へ向けて、他者への思いやりを大切にしながら、たくましく、しなやかに生活するために多くの本と出会い、読書の楽しさや知る喜びを体験できるように、家庭・地域・学校、図書館がそれぞれの役割を明確にし、その役割を果たすべく連携・協力しながら、市全体で子ども読書活動を推進していきます。

また、多くの場所において、子どもの成長や興味・関心に応じた本との出会い方が工夫されることで、自主的に読書活動に親しみ、本が自然に子どもの傍らに置かれ、本を身近に感じ、読書の習慣を身に付け、大人になっても自らの力で読書活動を行い、生涯にわたる読書習慣を育てられるよう、今後も引き続き「ほくと 子ど

も読書の杜プラン」の推進に取り組んでいきます。

2 子どもの健全育成に関わるすべての機関、すべての大人たちへの呼びかけ

子どもたちが読書をすることは、「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）」及び国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（平成14年8月閣議決定）において述べられているとおり、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくために不可欠なものであります。

また、近年の急激な高度情報化社会の進展は、断片的な情報を受け取るだけの受け身の姿勢をもたらしやすいため、子どもたちが自ら考え、判断する力を養うためにも、読書はますます必要になるものと考えられます。

このように、子どもにとって必要不可欠な読書活動について、行政、学校、地域が、活動の意義や重要性について理解と関心を深化させ、それぞれの立場で積極的な行動を起こし、また相互に協力・連携しながら、Plan - Do - Check - Action⁹⁾を繰り返し、効果的・効率的な活動を行うことが強く求められます。

3 計画のめざすもの

▶ 子どもの自主的な読書活動の推進

子どもが自ら進んで読書活動に親しみ、読書習慣を身に付けていけるよう、子どもの興味・関心を尊重しながら自主的な読書活動や読書習慣の定着を促すために、読書活動を推進します。

▶ 家庭・地域・図書館・学校等の連携

子どもが読書の楽しさや意義を知り、生涯にわたる読書習慣を身に付けるためには、家庭を中心とした地域全体における取り組みが必要とされます。家庭・地域・図書館・学校がそれぞれ担うべき役割を果たし、関係機関、民間団体等が連携し、相互に協力して子どもの読書活動のための取り組みを推進します。

9) Plan - Do - Check - Action
計画－実行－評価－改善

➤ 子どもが読書に親しむ環境の整備・充実

子どもがあらゆる機会と場所において、自ら読書活動に親しむことができる環境を整えることが大切です。子どもたちが進んで読書体験を深めることができるような環境づくりに努めます。

➤ 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子どもが自ら積極的に読書に親しむためには、子どもを取り巻く大人たちが、子どもの読書活動に対する関心をもつことが大切です。さまざまな機会を通じて、読書活動に対して理解が得られるよう、読書活動が果たす役割や意義、重要性について広く普及・啓発を図るよう努めます。

4 計画の期間

この計画は、平成30年度から平成34年度までの5か年間とします。
その後についても、継続して見直していきます。



第4章 具体的な方策

1 家庭・地域等における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭における子どもの読書活動の推進

子どもがよりよい読書習慣を身に付け、本に触れ、本を読む楽しさを知るためには、生活基盤となる家庭の果たす役割が大変重要になります。

幼いころから家族や身近な人と本を介して触れ合うことで、豊かな感性や思いやりの心を育み、想像力を養い、愛情を確かめることができます。また、身近な大人が意欲的に読書活動に取り組み、その姿を子どもが目にするによって、子どもの読書への興味を高め、家庭における読書環境を整えることができます。

○市立図書館の利用

- ・保護者と子どもが、おはなし会への参加や本の貸出などで一緒に図書館を利用する。

○家読の実施

- ・週1回か2週間に1回程度「家読の日」を設定し、家族が共に読書の時間を持つ。

○家庭での読み聞かせ

○読書に関する情報の収集

(2) 地域における子どもの読書活動の推進

地域には、公民館、児童館、放課後児童クラブ、放課後子ども教室¹⁰⁾、つどいの広場など、子どもが学び、健やかに成長するための活動の場が多くあります。これらの活動と読書活動をリンクさせ、ボランティアや保護者等の協力を得ながら、地域から子どもの読書活動を推進していきます。

○児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室・つどいの広場・子育て支援センター

- ・おはなし会の実施
- ・団体貸出
- ・市立図書館との共催によるイベントの開催

10) 放課後子ども教室

地域の様々な方の参画を得て、学校等を利用し、子供の居場所を確保し、さまざまな体験活動を行う事業。

(3) 行政による子どもの読書活動の推進

北杜市の将来を担う子どもがよりよく生きる力を身に付けるためには、市全体で子どもの読書活動を推進していかなくてはなりません。子どもの育成に関わる行政機関は、市立図書館等と連携を図りながら、読書活動を推進していきます。

○ほくとっこ元気課

- ・ブックスタート事業等への協力

○子育て応援課

- ・子育て支援に関するイベント等の開催及び情報提供

○生涯学習課

- ・子どもに関するイベント等の開催及び情報提供

2 学校等における子どもの読書活動の推進

(1) 学校における読書活動の推進

学校図書館は、児童生徒の読書習慣を形成するうえで、非常に大きな役割を担っており、その中でも学校図書館は、読書を通じて豊かな人間性を育む活動の拠点である「読書センター」としての機能と、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援する「学習情報センター」としての機能を果たしています。学校図書館がこのような機能を十分果たせるような環境整備を進めることが必要です。

○図書館利用のためのオリエンテーションの実施

○朝読書の推進、読書の時間の確保

○読み聞かせ、ブックトーク等の充実

○調べ学習のための支援

○委員会活動による読書の推進

○多種多様な図書に触れ合うための展示・掲示の工夫

○ボランティア・保護者等による読書活動への協力

○親子読書・家読の推進

○学校図書館蔵書の充実

○市立図書館との連携

- ・サードブック（就学時）の実施

新1年生へのおすすめ本の紹介、おすすめ本リストの配布

- ・読書マラソンの実施

学校図書館司書・市立図書館司書によるおすすめ本リストの作成、配布

- ・学校図書館と市立図書館による連携会議の開催

(2) 保育園における読書活動の推進

保育園においては、保育士等が日常的に読み聞かせ等を行っており、園児が読書に親しむ取り組みが積極的に行われています。

子育て支援センター等が併設されている保育園もあるため、親子が一緒に読み聞かせを楽しむことができるような環境づくりも必要となります。

○おはなし会の実施

- ・市立図書館によるおはなし会
- ・異年齢交流（小・中・高校生）における読み聞かせ
- ・ボランティア、保護者による読み聞かせ

○図書の団体貸出

○読書マラソンの実施

- ・おすすめ本リストの配布

3 市立図書館等における子どもの読書活動の推進

市立図書館等は、子どもの読書活動を推進するうえで、中核的役割を果たす施設です。子どもが豊富な図書の中から自分の興味に沿った本を自由に選択し、読書の楽しみや知識を得る喜びを知ることができる場所です。また、保護者にとっては、子どもの本を選び、子どもの読書について相談できる場所でもあります。

市立図書館では、おはなし会の実施やおすすめ本の展示等を実施し、また地域住民団体やボランティアグループ、学校図書館等の子どもの読書活動の推進に携わる機関と連携を図り、よりよい子どもの読書環境整備に努めていきます。

○児童資料の網羅的な収集

- ・8図書館の特徴を活かしながら、幅広い資料の収集を行う。

○ヤングアダルト¹¹⁾資料の収集

○おはなし会、各種イベントの実施

11)ヤングアダルト

おおむね12歳から18歳の中学生・高校生を中心とする世代。

○ブックスタート事業の展開

- ・ブックスタート（7か月健診時）、セカンドブック（2歳児健診時）各健診時に絵本の読み聞かせや、絵本のプレゼント、おはなし会の案内、おすすめ本リストの配布、読書相談を行う。
- ・サードブック（就学時）
新1年生へおすすめ本を紹介し、おすすめ本リストを配布する。

○本の杜への招待状事業の展開

- ・2歳児健診時に、各図書館で開催されるおはなし会への招待状を配布する。市立図書館でのおはなし会に、招待状に入れてある絵本の引換券を持ってきたら、絵本を1冊プレゼントする。

○ママパパ学級における読書活動の理解促進

- ・読み聞かせ、ブックスタート事業の趣旨を説明する。

○読書マラソン

- ・学校図書館司書・市立図書館司書が作成したおすすめ本リストを配布する。

○学校図書館との連携

- ・読み聞かせ、ブックトーク等の実施
- ・調べ学習等における資料の提供、相談
- ・職場体験、施設見学等の受け入れ
- ・学校図書館、市立図書館による連携会議の開催

○障害のある子どもへの読書活動の支援

- ・障害の種類や特性に応じた図書資料の収集や提供、おはなし会等の実施
- ・障害をテーマにした本、障害を理解するための資料の整備

○日本語を母国語としない子どもへの読書活動の支援

- ・外国語資料の収集や提供、外国語によるおはなし会等の実施

○子どもの読書に関する相談、レファレンス¹²⁾の充実

○情報提供

- ・図書館情報誌「やまね便り」の発行
- ・おすすめ本リストの発行

○ボランティアの養成、研修、活動の場の提供

○子ども読書活動に関する職員研修の実施

○地域団体との連携

○地域住民への、「家読」等子ども読書活動推進事業の周知・理解の促進

12) レファレンス

利用者からの質問に対し、回答となる情報そのもの、あるいは回答までの道筋となる情報を提供するサービス。

○関係機関との連携

- ・子どもに関わる各機関との連携による、活字を読むだけでなく、絵本や図書を通して楽しく本に親しむ事業の実施並びに環境整備の充実

4 子ども読書活動推進の啓発・普及・広報の推進

家庭、地域、学校等において子ども読書活動を推進していくためには、さまざまな情報を提供し、子どもをはじめ、子どもを取り巻く大人への啓発にも積極的に取り組み、子どもの読書活動の推進に対する意識向上、理解を高めていくことが重要です。

○「子ども読書の日」等における啓発・広報

- ・「子ども読書の日」（4月23日）、「子ども読書週間」（4月23日～5月12日）を中心に、学校図書館・市立図書館においてイベント等を開催し、その意義について周知を行う。

○図書館情報誌「やまね便り」の発行

○おすすめ本リストの配布

○ホームページによる情報提供

○広報、CATV等による啓発広報活動

5 子ども読書活動推進体制の確立

子どもの読書活動の推進を図るためには、学校、市立図書館、その他の関係機関及び民間団体との連携・協力が必要不可欠です。この計画を推進するために毎年調査を実施して進捗状況の把握に努めます。

○山梨県立図書館、山梨県内公共図書館、国立国会図書館等との連携・協力強化

- ・資料の相互貸借

- ・山梨県内公共図書館発行の「こどもにすすめたい本」¹³⁾の選定・活用

○市民団体やボランティアとの協働

- ・市立図書館との協働によるイベントの開催
- ・ボランティア研修の実施や情報提供

13) 子どもにすすめたい本

山梨県内公共図書館等の司書が選定した楽しく読める本・子どもの成長に有益な本100冊。

第5章 計画の推進に向けて

1 数値目標

第三次計画の推進にあたり、子どもの読書活動が効果的に遂行されているかを客観的に測るため、数値目標を設定します。

指 標 名		平成29年度	平成34年度	推進機関
ブックスタートで配布した本の読書率		98%	100%	図書館
本の杜への招待状事業における絵本引換率		33.3%	50%	図書館
ブックスタート・読み聞かせ・朗読ボランティアの登録数及び活動状況	登録数(延)	174人	180人	図書館
	稼働率	83.3%	85%	図書館
週3回以上家庭の中でお子さんに本を読んだり、一緒に本を読む回数の割合	保育園	51%	55%	子育て応援課
本を読むことが好きな児童・生徒の割合	小学校	86.6%	90%	小学校 教育総務課
	中学校	74.4%	80%	中学校 教育総務課
月1回以上市立図書館を利用する児童・生徒の割合	小学校	50.5%	53%	小学校 教育総務課 図書館
	中学校	37.7%	40%	中学校 教育総務課 図書館
	高等学校	28%	30%	高等学校 図書館

※数値は、次の資料による。

- ・「平成29年度子ども読書活動アンケート調査」
- ・「平成28年度本の杜への招待状プレゼント本配布一覧表」
- ・「平成29年度北杜市図書館ボランティア名簿」
- ・「ほくと子ども読書の杜プラン ―第二次北杜市子ども読書活動推進計画―進捗状況報告書(平成28年度)」

ほくと 子ども読書の杜プラン 施策体系

